



クリスマスキャンペーンが始まります クリスマスまでに 下記の応援・ご協力をお願いします

チャイルド・スポンサーになる

子どもたちとつながり、支援の実感が持てるチャイルド・スポンサーシップ。P.2-5でご紹介した「1000GIRLS」P.6-7の新しく始まる「グアテマラ共和国」の支援をご希望の場合は、それぞれ「1000GIRLS」「グアテマラ」と明記の上お申込みをお願いします。

電話でのお申し込み

03-5334-5351
(平日10:00-17:00)

WEBからのお申し込み

ワールド・ビジョン



イベントに参加する

ワールド・ビジョンでは、1年を通じてさまざまなイベントを開催しています。

ワールド・ビジョン・カフェ

今年9月、約3年半ぶりに対面での「ワールド・ビジョン・カフェ」を大阪と東京で開催できました！スタッフからの活動報告に加え、参加者の皆さま同士での交流タイムも大いに盛り上がりました。

インスタライブ

今年7月から月に1回「インスタライブ」を実施しています。「新人 NGO スタッフが先輩スタッフに突撃取材」シリーズで、「ここでしか聞けない話」をします。

今後の開催予定は、
ホームページや SNS、メールでご案内します！



クリスマス募金に協力する (P.8-9)

P8-9でご紹介した『子どもたちの豊かないのちを守る食糧支援』のため、皆さまのお力を貸してください。

水と食糧を届ける
クリスマス募金について



お友達に紹介する

皆さまがご紹介くださることを通して、世界の子どもたちの状況を知り、支援にふみだしてくださる方がいます。ご協力をお願いします。

SNS、LINEで応援する

まずは知るきっかけを作ってくださいますようお願いいたします。SNS フォロー、いいね、LINEのお友だち追加をお願いしています。



FACEBOOK
@worldvisionjapan



X
@WorldVisionJPN



Instagram
@worldvisionjapan



LINE
LINE



私たちと一緒に子どもたちをご支援をくださり、ありがとうございます

クリスマスキャンペーン が始まります

1000GIRLS

202

2023年 冬号
ワールド・ビジョンニュース

クリスマスまでに、1000人の少女たちに希望を

1000 GIRLS

わたしは、闘う

早すぎる結婚、性的搾取、暴力、虐待に怯えながら暮らす日々を終止符を。守ってほしいのではない。わたしと一緒に、この理不尽と闘ってください。



途上国の女の子を取り巻く現状

1 貧困
貧困のしわ寄せは女の子により重くのしかかります。厳しい家計の中で教育を諦める可能性が高いのは女の子。学校に行かずに家族の世話をしたり、水を汲むために長い距離を歩かなければならないのも、たいいてい女の子です。十分な教育を受けていない女性の収入は低く、貧困の連鎖が続いてしまいます。

2 児童婚
家計の負担を減らすなどの理由で、毎年 1200 万人の少女が 18 歳未満で結婚させられています。世界的な感染症や食糧危機の影響で状況は悪化。結婚により教育を諦めてしまうだけでなく、早すぎる妊娠・出産は少女の身体に悪影響を及ぼし、また、家族や友人から孤立し家庭内暴力を受ける可能性も高まります。

3 人身取引
性的搾取を目的とした人身取引の被害者の 60% が女性で、27%が 18 歳未満の少女。貧困などを理由に人身取引の被害に遭い売春を強制された女の子は暴力を受けることが多く、また、逃げ出すことができても、コミュニティから「恥」と見なされて受け入れてもらえなかったり、トラウマに苦しんだりすることがあります。

4 女性器切除 (FGM)
FGM (Female Genital Mutilation) とは、女の子の性器の一部または全体を切除する慣習です。「純潔」を維持するなどの理由で、一部の地域で通過儀礼として行われていますが、激しい痛みや大量出血、感染症、不妊のリスク、場合によっては死に至ることもあり、少女の心と身体に一生傷跡を残します。

もし世界の女の子が1000人だったら…

200人は
18歳未満で結婚させられます

138人は
学校に通えていません

50人は
性暴力を受けて恐怖の中にいます

女の子として生きるのが最も難しい国の1つ、コンゴ民主共和国では…



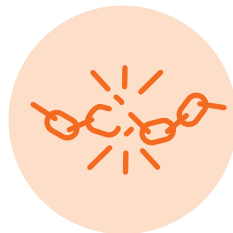
数十年に及ぶ紛争や情勢不安の中、性暴力や性奴隷、人身取引など、女の子に対する暴力が蔓延しています。暴力は住民を恐怖で支配し、家庭や地域社会を崩壊させるための「武器」なのです。2017 年に行われた調査では、南キブ州の思春期の女の子の大半が性的・身体的・精神的な暴力を経験していました。ワールド・ビジョンは、性暴力を受け、勉強を諦めなければならなかった女の子たちが学校に戻れるように支援しています。

チャイルド・スポンサーシップが女の子の未来を変えられる 4つの理由



理由 1 女の子への暴力を止めることができる

活動に参加する中で、女の子たちは「性暴力や虐待は当たり前ではない」ことを理解し、自分たちの権利を守れるようになります。また、女の子が暮らすコミュニティや、そこに根づく慣習にもアプローチするため、暴力の問題を根本から解決することができます。



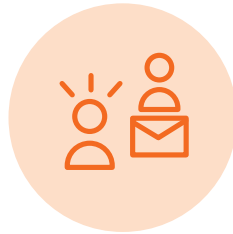
理由 2 貧困の連鎖を断ち切り、未来を切り拓くことができる

貧困の重みは、女の子に重くのしかかります。チャイルド・スポンサーシップを通して、その連鎖を断ち切ることで、貧困が原因で早すぎる結婚を強いられる女の子や、学校に通えず、働くしか選択肢がなかった女の子の「未来」を切り拓くことができます。



理由 3 教育を受け続けることで、将来の収入が増加する

チャイルド・スポンサーシップの支援の中心となる「教育」。女の子たちを教室から遠ざける様々な要因を取り除きます。そして、女の子が初等教育を受けることができれば、将来の収入は 20% も増加し、高校まで進学すれば最大 25% の賃金の増加が期待できます。



理由 4 応援してくれる人がいることは、大きな自信になる

チャイルド・スポンサーとの手紙のやり取りや交流は、子どもたちに希望を与えます。そして、「遠くから自分を応援してくれる人がいる」ことを知った子どもたちは、どんな困難にも立ち向かうことのできる「自信」を身につけることができます。



生理用ナプキンを作る活動に参加するウガンダの男子。生理に対する偏見をなくすことで、いじめを防ぎます。

コラム 男子は支援しなくて良いの？

理不尽な慣習を変えていくためには、男子の参加も不可欠です。チャイルド・スポンサーシップの支援では、女の子と男子、また地域の大人たちを巻き込んで、男子も含む「すべての子どもの権利」について伝えています。また、女の子が早すぎる結婚から逃れ、十分な教育を受けることができれば、彼女自身の人生が変わるだけでなく、その家族やコミュニティ、さらには彼女の将来の子どもにまで、健康、教育、収入などの面で良い影響をもたらします。

困難に立ち向かう女の子のストーリー



ヘダちゃん和デシさん インドネシア

障害のあるヘダちゃんとそのお母さんデシさん。2人が生きていくため、デシさんは娘を残して働きに出なければならませんでした。ヘダちゃんが9歳の時、複数の男が家へ押し入り、性暴力をふるいました。数週間の間に5回も。事態を知ったデシさんはワールド・ビジョンに助けを求めました。性暴力を受けたことは恥とされ、声を上げることも簡単ではない社会。今、2人は、同じ恐怖を他の子どもたちが味わうことのないよう、地域のリーダーや人々に働きかけています。

エスターちゃん タンザニア

16歳のエスターちゃんは、片道8キロの道を歩いて通学します。道中では野生動物に加えて性暴力の危険にも晒される、まさに「命がけの通学」。授業の後、水汲みをして帰る頃には辺りは真っ暗です。それでも、エスターちゃんは「教育が拓く未来」を夢見て、危険を冒してでも勉強を続けます。成績は地域でトップ。ワールド・ビジョンは、学校の先生とともに性暴力を察知するためのネットワークを立ち上げるなど、彼女の学びを支えています。



モニカちゃん バングラデシュ

女の子の半数以上が18歳の誕生日を迎える前に結婚する国、バングラデシュ。チャイルド・スポンサーシップの活動を通して、児童婚による身体的・心理的ダメージを知ったモニカちゃんは、自身を早すぎる結婚から守るだけでなく、児童婚を止めるためのチームを立ち上げました。これまでに阻止した結婚は10件。地域の慣習を変えることは簡単ではありません。それでも、地域の女の子の未来のために、今日も彼女は児童婚との闘いの最前線に立つのです。

スタッフより 女の子を取り巻く理不尽に、一緒に立ち上がってください



新規ファンドレイジング課 佐野友紀

先日、中米のホンジュラスを訪れました。ここも、家庭内暴力や幼い少女への性暴力が深刻な場所です。ワールド・ビジョンの活動の中では、女の子も男の子も地域の大人たちも、「暴力ではなく、思いやりを持って他者と接する」ことの大切さを学んでいました。また、「自分は大切な存在である」と知った女の子たちの、自信に満ちた力強い姿が心に残っています。女の子たちが、理不尽な現実に対し「ノー」を突き付け、安心して未来に向けて歩めるように。一緒に立ち上がってください。

グアテマラ共和国で チャイルド・スポンサーシップの支援が始まりました！



2023年10月より、中米のグアテマラで新しくチャイルド・スポンサーシップの支援が始まりました。ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)が同国で支援活動を行うのは約30年ぶりのことで、現在現地スタッフや地域住民と緊密に連携を取りながら事業を進めています。新たに支援が始まったサンタ・マリア・カアボン地域およびチセク地域について、またWVJが実施する支援活動について、ご紹介します。

グアテマラってどんな国？



美しい民族衣装は、村ごとに異なるデザインが施されています



現在も活発な火山活動が続いています



グアテマラ共和国
Republic of Guatemala

メキシコやホンジュラスなどと国境を接しており、国土面積は北海道と四国を合わせたよりやや広く、公用語はスペイン語です。3つの世界遺産、色鮮やかな民族衣装など豊かな文化を持つ一方で、貧困率は高く、子どもの栄養不良率は49%を超えています。ハリケーン、地震、干ばつなどの自然災害が多く、世界的な気候変動の影響を大きく受けている国の一つです。グアテマラには4つの活火山があり、噴火によって甚大な被害を引き起こすことがあります。2018年の噴火では、子どもを含む多くの犠牲者を出しました。

ワールド・ビジョン・ジャパンが支援する地域

サンタ・マリア・カアボン地域／チセク地域

両地域では、住民の大半が家庭で栽培した野菜や家畜飼育により暮らしていますが、極度の貧困率は約6割以上(2011年、グアテマラ政府統計より)と非常に高く、慢性的な栄養不良に陥る子どもの割合が50%を超えています。成人男性の多くが都市部や海外へ出稼ぎに出ており、母子家庭や祖父母と子どもで暮らす家庭が多いことも特徴の一つです。



現地スタッフより ～支援地域の食事風景～

現地では、トウモロコシから作られるトルティーヤやタマレスという料理がよく食べられています。たんぱく源として鶏肉や卵のほか、季節によっては鹿、イノシシ、アルマジロなどの野生動物を狩って食べることもあります。クリスマス、新年、誕生日などの特別な日には、各家庭で「カキック」と呼ばれるとても辛いスープを作ります。



トウモロコシで作った「タマレス」という料理に唐辛子ソースをかけて食べる子どもたち



お祝い事の際に食べるスープ「カキック」

地域が抱える課題の例 **教育**

多くの子どもたちが数キロメートルの距離を歩いて学校に通いますが、その道のりは未舗装で、雨期になると道が冠水し、通学が困難になります。また、家計を助けるために働かざるを得ず、学校に通いたくても通うことができない子どもも少なくありません。



急な山道を上って通学する子どもたち



雨期には道が冠水したり、ぬかるみで通行が困難になることも

どんな活動をするの？ **支援活動の一例**



保護者や地域住民を対象とした啓発活動を実施し、教育の重要性を訴えたり、学校の設備を整えて教育の質を高めたりと、子どもたちが学校に通い、学び続けられるような働きかけを行います。そのほか、子どもの権利と保護に関する啓発活動や栄養に関する研修など、子どもを取り巻く環境を改善するため、様々な分野の取り組みを行います。

緊急人道支援の現場から ～子どもたちの豊かないのちを守る食糧支援～



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



まだ食べられるのに破棄される食品ロスが問題になる一方で、最低限の食料さえ手に入らず、食糧危機に直面している国もあります。気候変動（大雨・干ばつで作物が収穫できない）、長引く紛争（物流が停滞する）、物価高騰（高く買えない）が食糧危機を悪化させ、十分に食べることができない多くの子どもたちの栄養不良を招いています。

栄養不良は、特に幼い子どもたちの成長に深刻な影響を及ぼします。人間の脳は、3歳ごろまでに急成長するため、この期間に十分な栄養を摂れず発育障害に陥ると、その後の身体機能や学習能力の発達に遅れが生じる恐れがあるからです。今救える命を守り、健やかな成長を支えるため、ワールド・ビジョンは、次のような緊急人道支援を行っています。

- ①食糧支援（食糧の現物支給）
- ②栄養改善支援（栄養治療食の提供と経過観察）
- ③現金給付支援（バウチャー・引換券給付）

それぞれの事例を見てみましょう。

1 食糧支援 避難生活を支える穀物や豆等を提供します



食糧を受け取った、コンゴ民主共和国のエスターさんとレイナードちゃん

紛争、自然災害、長期にわたる情勢不安など複数の危機が重なる、アフリカ大陸の中央に位置するコンゴ民主共和国。600万人^{*1}を超える国内避難民の多くは、最小限の持ち物だけで避難しており、次の食事の目途が立たないといった食糧不安に直面しています。ワールド・ビジョンは、穀物、豆、油などの食糧配布を通じて、避難生活を余儀なくされた人々の命を守り、支えています。

*1 UNHCR, Operational Data Portal, June 2023

2 栄養改善支援 栄養治療食の支給と経過観察を通じて回復を支えます



支給された栄養治療食を食べるエマンちゃん/腕の太さを測り、栄養状態を確認します。

長引く紛争や気候変動の影響で、世界で最も深刻な食糧危機に直面する南スーダン。急性栄養不良に陥っている子どもの数は、140万人^{*2}に上ると報告されています。保健センターで重度栄養不良と診断されたエマンちゃんは栄養治療食を支給されています。お母さんのマリーさんは、経過観察と栄養指導を受けるため、定期的にセンターに来ています。「エマンの経過観察を受けて、体重が増えていることが分かりました。食欲が戻り、順調に回復しています」とマリーさんは話します。

*1 UNHCR, Operational Data Portal, June 2023

3 現金給付支援 各家庭が必要とする食材を手に入れられます



配給の日に現金の支援を受けた、マリ共和国の女性たち。赤ちゃんのためのミルクや野菜などを購入する家庭もあります。

西アフリカに位置するマリ共和国。近年のクーデターや長引く紛争により、国内避難民の数は37万人を超えています^{*3}。家を離れ収入が途絶えて生活が困窮し、日々の食事を切り詰める人も少なくありません。その結果、子どもたちの栄養不良も多く報告されています。ワールド・ビジョンでは、避難民を対象に現金給付を実施し、各家庭が最も必要な物資を購入できるよう支援しています。ラマタさん(仮名)は、「まずは子どもたちに食べものを、つぎに子どもたちに服や靴を買いたい」と話します。人道支援の現場では、金融やデジタル技術の進展に伴い、現金やバウチャー（引換券）給付による支援も広がっています。穀物等の物資を遠方から運んで分配する方法に比べて、より早く支援できることや、商店等で食品等を購入するため、地域経済の活性化にも貢献できる利点があります。

*1 UNHCR, Operational Data Portal, June 2023

すべての子どもたちの”豊かないのち”のために



ワールド・ビジョン グローバル飢餓対応ディレクター メリー・ンジェリ

ソマリアでは、何日も食べものを口にしておらず泣くことすらできない赤ちゃんや、今日を生きるため子どもを結婚させたり、働かせたり、苦渋の選択を強いられる保護者に出会いました。子どもたちが次々と過酷な状況に追いやられる現状に心が痛みますが、それでも私は希望を持っています。国籍を越えて一致団結し、最も弱い立場にいる人々のことを最も優先することができたら、何百万人もの人々の命を救い、今よりも明るい未来を築くことができると、心から信じています。これからも“すべての子どもの豊かないのち”のため、人道支援の最前線で日々奮闘する仲間とともに、飢餓対応支援に取り組んでまいります。

“人生の証”を、未来につなげる 遺産や相続財産を寄付する方法があるのをご存じですか？

「遺贈」は、遺言によって財産の一部またはすべてを特定の個人や団体に無償で譲与することです。また、故人のご遺志を受け継いだ相続人が相続財産から寄付することもできます。ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は十数年にわたり、これらのご寄付をお受けしています。特に近年は、相続人がいらっしゃる方からのご相談が増えています。

「アフリカの子どもたちのために…」WVJへ想いを託して下さったT様(70代男性)

T様はご自身のご病気が発覚後、偶然テレビでWVJの番組をご覧になり、遺言執行者となる士業を通して、WVJにお問い合わせをくださいました。そして熟考の末、WVJへの遺贈をご決断。遺言書には、ご自身の想いを残してくださいました(一部抜粋)。

T様のご遺志を尊重し、ご遺贈はアフリカでの水事業のために大切に活用させていただいています。



私は、アフリカの子どもにきれいな水を飲ませたいという思いから、ワールド・ビジョン・ジャパンに私の残った財産を有効活用してもらいたいののでこの遺言書を遺すことにしました。
どなた様もこの遺言に異議をととなえることのないようにお願いします。



詳しいパンフレット(無料)もご用意しています

遺贈や相続財産のご寄付は、まさに“人生の証”。子どもたちのより良い未来に役立たせるため、ぜひ、ワールド・ビジョン・ジャパンにお手伝いをさせていただきます。秘密厳守、無料でご相談をお受けしています。ささいなことでも構いません。どうぞお気軽にお問い合わせください。

パンフレットのご請求・お問い合わせは「遺贈寄付担当」まで
TEL: 03-5334-5355 (平日10:00-17:00)
Eメール: donation@worldvision.or.jp



そばた 担当スタッフ 蘇畑光子より

遺贈寄付についてのご相談をいただく際や、ご遺言書を拝見する度に、ご自身の、または大切なご家族の財産をワールド・ビジョン・ジャパンに託して下さることへの感謝で、胸がいっぱいになります。同時に、その信頼の重さに身が引き締まる思いです。尊いご遺志を実現できるよう、これからも力を尽くしてまいります。

領収証 2024年1月22日に発送予定です

2023年1月1日から2023年12月31日までに当団体が受領したご支援金の領収証を発行します。郵便配達状況により、お手元に届くまで日数がかかる場合があります。1月末頃までお待ちいただけますようお願いいたします。



領収証イメージ

2023年領収証に含まれるご寄付

- クレジットカードのご利用
JCB、AMEX、ダイナースクラブ：2023年10月末日まで
VISA、MASTERCARD、セゾンカード：2023年11月末日まで
- コンビニエンスストアからのご送金
2023年12月10日まで
- 口座振替のご利用
2023年12月のお引落とし分まで



送金履歴の
照会はこちら

上記以降の寄付は、翌年の領収証に含まれます

寄付金控除は確定申告で

当団体は東京都より「認定 NPO 法人」として認められており、皆さまからのご支援金は、確定申告によって税制上の優遇措置が受けられ、最大 40%が控除されます。

⚠️ 年末調整では寄付金控除等を受けることはできません



領収証についての
よくある質問はこちら

住所変更 お引越しされた方、ご予約がある方はご連絡ください！

チャイルドからの手紙や成長報告、領収証など、大切な郵送物を確実にお手元にお届けできるよう、登録情報の変更がある方は事務局にご連絡ください。2023年領収証は、12月20日までにご連絡いただいたご住所にお届けします。



登録情報の変更は
こちら

世界に思いをはせて

Vol.13. 事務局長 木内(きない)真理子

「地図から踏み出す」一勇気を持って挑戦する、というテーマで進めてきた中期計画の旅路も、この10月で後半に入りました。振り返ると、世界が激動する中、地図のない世界に「放り出された」かのようなスタートでした。そして、世界の危機が紛争、気候変動、食料と高まる今、改めて、大切なことは何かを考えさせられます。スタッフミーティングではよく、「きっとものごとは良くなると信じ希望を持とう!」、という話になります。WVの使命は、最も弱い立場にある子どもたちに寄り添い、その子の人生を佳きものにしていくことです。この使命を果たそうとすると、当然世界の最も厳しい場所がWVの居場所になります。次々と現れる危機を前に、正直恐れや不安で足がすくみます。でも、「きっと良くなる」と信じ希望を持つとき、恐れを乗り越え、留まり、なおも一歩を踏み出す勇気が与えられると思うのです。この希望の歩みには、一緒に歩いてくださるパートナーがいます。最大のパートナーは、子どもたちとご支援者です。子どもたちの笑顔が旅路の灯、ご支援者の皆さまの応援が前進する力です。2024年度も、この子の人生を佳きものにするとう願う旅をともに歩んでいただければ幸いです。



Photo by ソーシャルグッド / 宿野部隆之